世界が注目！憲法九条を守り、生かそう！

島九条の会通信

NO .102　2023. 7. 13
島中学校区九条の会発行
連絡先　井川方
TEL・FAX　058-231-5293

第６４回例会のお知らせ（主催：岐阜西・岐北・さぎ山ときわ・島・早田各九条の会、岐阜北民商）

「檻の中のライオン」講演会←動物園の話ではありません

- 講　師　椽（はんどう）　大樹さん（弁護士）
- と　き　8月11日(金)午前9：30～12：00
- ところ　西部コミセン（大集会室）
- 資料代　大人1000円　学生200円

前回の沖縄の緊急集会に続いて、またまた急な話ですが上記の講演会を周辺の各組織と共催します。

私たちは安倍・菅・岸田政権のもとで、散々に憲法が蔑ろにされるのを目の当たりにしました。しかし本来の憲法はそんなやわなものではありません。憲法とは？憲法の役割とは？広島の弁護士：椽　大樹さんが私たちにわかりやすく・楽しく話してくれます。対象は子供から大人まで。身近に小学校高学年以上のお子さんがいらっしゃったら、ぜひご一緒に。詳しくは別紙チラシを。九条の会の講演会とは一味違ったお話が聞けそうです。

岐北・岐阜西・島九条の会共催「沖縄、再び戦場（いくさば）へ」緊急集会の報告

前号でお知らせした見出しの集会は6月24日西部コミセンで開かれ28名が参加しました。集会は、記録映画「標的の村」や「沖縄スパイ戦史」などで知られる映画監督三上智恵さんの次期作「沖縄、再び戦場へ（仮題）」（'24年春完成予定）のスピンオフ作品を見て、参加者が感想を話し合う形で進みました。

このスピンオフ作品については、「三上智恵監督最新作『沖縄、再び戦場へ（仮）』制作応援のお願い」と題するHPにある三上さんのコメントが全てを語っていますので、その一部を紹介します。

「昨年末の安保三文書で」明らかになったのは、日本が敵基地攻撃能力や先制攻撃も可能な軍事国家になったことだけではありません。日米政府の言う抑止力とは「南西諸島にミサイルを並べ、最悪の場合報復攻撃の戦場になるもやむなし」という南西諸島の犠牲を覚悟したものであるという本音も暴露されました。戦場になると名指しされたも同然の島々では、これから基地の地下化、シェルター設置、ミサイル避難訓練、弾薬庫大増設、小さな離島を含む空港と港湾の軍事化が急ピッチで進みます。いま制作中の新作映画は、平和を求めて戦う沖縄の最前線を描いた2017年の『標的の島　風かたか』の」続編にあたります。2017年～2023年の戦争に向かって突き進む怒涛の日々が描かれることになりますが、しかし映画館での公開は早くても2024年春以降になり、その時、沖縄が予断を許さない状況になっていることすら考えねばならないと危惧しています。（後略）」

文章はだからこそスピンオフ作品を、多くの人にみてもらって（三上さんの）危機感を共有してほしいと続きます。24日の上映会でも、参加者全員がこの三上さんの危機感が共有できたと感じました。

岐阜県議会「緊急事態に関する国会審議を求める意見書」を可決

7月6日（木）岐阜県議会で、自民党県議団が提出した「憲法改正」を求める岐阜県議会議長名の意見書が、残念なことに圧倒的多数（反対1、棄権1）可決されました。意見書の正式名は上の見出しの「　」内です。内容は以下のとおり。（　）内は前段の編集者要約、他は原文です。

「（コロナ禍や大規模自然災害を例に、現行の法体系では十分な対処ができない（できなかった）から、大規模地震災害も予想される、また今後より重大な災害などが起きたら今の法体系では対処できない）したがって、感染症や自然災害など緊急事態に強い社会をつくるための法体系を整えることは、全国民にとって喫緊の課題であり、そのための法整備を進めることが必要である。さらには、その根拠規定である憲法について、国会において建設的な議論にとりくまれるべきである。

よって、国においては、緊急事態に対応できる国づくりに向け、国会において建設的かつ広範な議論を促進するとともに、国民的議論を喚起するよう強く要望する。（後略）」

感染症拡大や大規模自然災害による危機を煽って・・・・

前段で今後起こりうるであろう、より大規模な感染症や自然災害対策のために法整備を進めろと書いて、おしまいのところで「その根拠規定である憲法」について国会で早く「建設的な議論」をせよと書く。ある意味で巧妙な論の進め方だと思いますが、本音は当然そのおしまいの部分です。

私たちの社会は、コロナ禍にしても毎年のように起こる大規模自然災害に対しても、検証しなければならないことは多々ありますが、緊急事態への対処規定を憲法に書き込まねばならないような混乱は起こしていません。この意見書は、国会で憲法「改正」論議が（安倍・菅・岸田の３代に渡る首相が「憲法改正」を唱えながら）、なかなか進まない自民党の苛立ちを感じますし、社会の不安を煽って憲法（９条）「改正」につなげようとする意図が見え透いています。

なお隣の**長野県議会でも同様の意見書が出されたところ、否決された**とのことです。

クラスター爆弾でも、アメリカなら OK

2010 年にクラスター爆弾の使用・開発・生産・保有などをその非人道性から禁じるオスロ条約が発行しました。もちろん我が日本国も署名・批准しました。米・露・中・ウクライナなどは参加していませんが、ヨーロッパ各国など１２５ヶ国が批准もしくは署名しています。

報道でご存知でしょうが、そのクラスター爆弾をアメリカがウクライナに供与すると発表しました。当然オスロ条約に参加している各国（NATO 加盟国でも）が反対・懸念を表明しました。我が日本国もせめて懸念くらいはと思いましたが、松野官房長官は７月 10 日記者会見で追認しました。沖縄で米軍がやりたい放題でも、「首都」東京で高層ビルの間を米軍ヘリが飛び回っても、何も言えない日本国政府の本領発揮です。「安保３文書」を閣議決定して真っ先にアメリカ大統領に「ご報告」した岸田首相も然りですが、この国の政権にとって何が大切なのでしょう‥‥

11 月 3 日の「ぎふ・平和のつどい」で講師に話してほしいこと募集

前号で「平和のつどい」の講師（白井聡さん・望月衣塑子さん）をお知らせしましたが、当日は質問・意見の時間が取れません。実行委員会では事前にみなさんからお二人に話してほしいこと・質問したいことを募集して、それをお二人に伝え、講演に生かしてもらおうということになりました。お二人の話への要望がありましたら、島九の世話人もしくは「岐阜・九条の会」までお寄せください。

エッセイ　今こそ啄木　田中　良

多感な少年だった私は、敗戦後の1年あまり、天皇制絶対護持を叫ぶ右翼少年の端くれだった。中２の夏、島崎藤村の「破戒」と出会い、さらに石川啄木の歌集や伝記を読み、私は魂を鷲掴みにされ、左傾化していった。啄木は私の生涯に影響を与え続けた。

先日、仲間たちとともに「岐阜啄木祭」を開いた。定員の100人を超える申込者があり、何人かは断らざるを得なかった。だが当日は豪雨禍の余波で一部の鉄道が止まり、静岡勢の十数人をはじめ会場に来られなかった人もあり、じっさいには85名の参加であった。著名人たちの参加や湯上さんの啄木の歌で盛り上がり、碓田のぼるさんの記念講演が感動を呼び、参加者から「大成功！」の声をたくさんいただいた。

これは紛れもなく『啄木』の力によるものである。この世を去って110余年が過ぎたのに、啄木熱は静かに続いている。決して過去の人ではなく、今こそ啄木なのである。

評論「時代閉塞の現状」で世を憂い、「ヴ・ナロード（人民の中へ）！」と叫んだ当時の啄木の切迫した思いは、「新しい戦前」を憂えたタモリの言葉に直結する。

「労働者」「革命」などといふ言葉を！／　聞きおぼえたる／　五歳の子かな。

浪漫主義または感傷的な一面で見られることのある啄木の晩期の一面、「新しき明日の来る」を信じ、米代・クスリ代もなかった凄絶な貧苦と一家を襲った不治の病に力尽き、26才で夭折するまでの凄まじい闘いに私は言葉を失う。「大逆事件」の記録を筆写し、さらに山川均の「資本論」まで筆写して自身の中に取り入れようとした文字通り命がけの闘いであった。

赤紙の　表紙手ずれし国禁の　書よみふけり　夏の夜を寝ず

啄木は、単に私の青春時代の挽歌ではなく、まさに現代に生きる私たちを叱咤し励ますのである。啄木死去の1912年（明治45年）という年からはロシア革命まで5年、日本共産党が産声を上げるまでに10年の歳月が必要であった。その事実だけでも、啄木の先見性や闘志が私を跪かせるのである。